

生物多様性

ENVIRONMENT 

▶方針・考え方

当社グループは、インフラ事業を軸として様々な事業を実施しており、サプライチェーン全体において自然との接点を有しているため、様々な形で自然環境・生態系から恵みを受けると同時に、影響を与えている密接な関係にあります。そこで、2025年4月に「関西電力グループにおける生物多様性の取組みに関する基本方針」を制定しました。今後も、当社グループは、生物多様性の向上に積極的に取り組むことで、事業の持続性を追求し、ステークホルダーの皆様から信頼される企業になります。

◆<関西電力グループ環境方針 5. 生物多様性の向上>

5. 生物多様性の向上

関西電力グループは、生物多様性に依存し、また影響を与えていることを認識し、生物多様性の向上に積極的に取り組むことで事業の持続性確保と機会を創出します。

関西電力グループにおける生物多様性の取組みに関する基本方針

(1) ありたい姿

関西電力グループは、生物多様性の向上に積極的に取り組むことで、事業持続性を追求し、ステークホルダーの皆様から信頼される企業になる。

(2) 取組内容

【事業の持続性確保】

各部門が生物多様性への依存と影響に関して事業活動に与えるリスクを特定し、事業の持続性の確保に資する取組みを実施する。

【機会の創出】

自社事業やアセット等を活用し、生物多様性の向上と事業継続(ビジネス)を両立した取組みの拡大・創出を行う。

【積極的な開示】

生物多様性の取組みについて積極的な開示を行う。

<TNFDへの対応について>

当社は、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）を活用した開示を積極的に行うとともに、今年度は詳細にまとめた内容を統合報告書およびTNFDレポートとして掲載しています。今後も開示内容の充実に努めます。

TNFDレポート

<https://www.kepcoco.jp/corporate/report/tnfd/pdf/2025/tnfd2025.pdf>

関西電力グループ 統合報告書(p.39～p.43)に概要版を掲載しています。 

<https://www.kepcoco.jp/corporate/report/integrated/index.html>

目 標

生物多様性の向上

取組み

● 水源涵養林における環境保全活動

当社グループが所有する緑地や水域等は、多様な生態系を有しております。岐阜県神通川水系の支流付近にある約2,300haの水源涵養林について、地域と一体となった枝打や間伐等の保全・整備活動を毎年実施してきました。これにより、安定した水力発電による事業の持続性の確保と環境保全による地域貢献を両立しています。2025年9月には自然共生サイト^{*}に登録され、今後も生物多様性の向上に資する取組みを推進してまいります。



飛騨万波山林(水源涵養林)

^{*} 自然共生サイト：環境省により認定される、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域。

● コウノトリの保護と電力の安全・安定供給

関西電力送配電(株)では、放鳥されている国の特別天然記念物のコウノトリが電柱や鉄塔などに営巣して停電やコウノトリの感電が危惧されるため、細かに巡回し、自治体と連携して巣の移設や、電柱等への接近阻止対策を行い、コウノトリの保護と電力の安全・安定供給を両立させています。

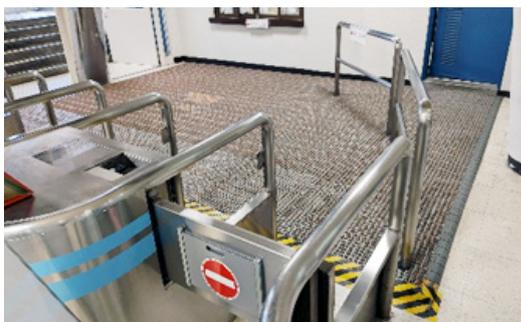


電柱の状況を確認の様子

● 黒部ダム周辺の実施

◆ ダムの入口、扇沢駅での在来種保護の実施

年間90万人が利用する扇沢駅の改札口と駅のホームの間には、外来種の種子等が観光客の靴底から持ち込まれないよう、種子除去マットを敷設して侵入を防ぎ、貴重な生態系を保全しています。



扇沢駅の改札口に設置している種子除去マット

◆ 関電不動産開発(株)による実施

関電不動産開発(株)は、2025年5月に「関電不動産開発 くらよんの森」プロジェクトを開始し、地元行政である大町市立会のもと、地元森林組合、NPO法人と森林整備協定を締結し、「森林の保全・再生を通して持続可能な未来を実現する」ことを目的に、官民協働体制での森づくりを推進しています。また、分譲マンション「シエリア」における独自の生物多様性保全基準「シエリアLink Greensプロジェクト」を定めています。



関電不動産開発(株)「くらよんの森」

◆ 未利用木材資源の循環

(株)かんでんエルファームでは、黒部ダム等の流木をガーデニング堆肥原料(腐葉土)、ノベルティ商品やバイオマス発電資材として再生することで、サーキュラーエコノミーの実現をめざしています。

